

令和２年度 稲沢市地域自立支援協議会 第１回権利擁護推進部会 議事要旨

〔日 時〕 令和２年６月９日（火）午後２時～午後３時２５分

〔場 所〕 稲沢市役所 第１分庁舎 ２階 第２会議室

〔出席者〕 権利擁護推進部会委員５人、事務局４人、その他２人

〔欠席者〕 なし

〔議 事〕

１ 協議事項

(１)令和２年度の部会課題について

- ・令和元年度の個別支援会議からの課題及び、中軽度の障害者の余暇活動及び性教育等についての課題について説明(事務局)

- 余暇活動について、事業所では何をしているか分かっていない。グループもない。それぞれ自分の楽しみを持っている。ゲームとかにお金をかけたり、物を集めている子はいるが、グループになるのは難しい。お世話をする人がいると良いと思う。
- 性の問題については、昔研究していたが、基本は健常者と同じだが丁寧に説明しないと理解できない。小中高で性教育をしているが、社会に出てからできるかという点と難しい。集まる所もない。NHKのEテレでそうした問題を扱っている。本もあり、皆それぞれでやっている。結婚した人もいるし子どもがいる人もいる。大変だが子どもを作ってはいけないということはない。支援があれば育てられる。子育てにしても結婚にしても支援が必要で、それを権利擁護推進部会でどうするかという事だと思う。
- 資料１－２について会議の出席機関が記載されているが、家族欄に×の方がある。またその他欄に保佐人と記載されている方がいるのはどういうことか。
- 本人、家族の出席について、場合によっては本人が参加せず、関係者が共通認識を持つ会議を行うこともある。家族については、本人だけで話が進められる場合など、参加されない場合がある。保佐人については成年後見制度を利用されている方で金銭管理などをお願いしている方である。
- NO.５のかたは家族の出席がないが、いないということか。
- 一人暮らしなので同居家族はいないが、親族はいる。この時は参加しなかった。
- 家族の参加も出来るだけあった方が良いのかなと思う。
- ２０代になってから性教育ってどうするのか。中学校ぐらいまでできちんとしておかないと、今２０代で性教育とか余暇といっても受け入れる人があるかなと思う。しっかりした所でないといけない話だと思う。
- 義務教育で、社会人になる基本的なことを教育しないといけないと思う。高校も義務ではないが、少なくとも大人になる準備というのは教育に含まれると思う。学校へ行っていないとか、グループホームやA型とかB型という施設で、といった時に、どこまでできるのか。少なくともB型の立場で言うと、栄養の摂り方とか生活習慣と言うことは

しているが、それ以上の事は、特段の制度や仕組みはない。A型やB型の生活支援に取り入れるかどうか。そこまで考えていないのが実情だと思う。どうするかは皆さんと検討して行かないといけない。

- 今年度、障害者へアンケートを取る。第6期の障害福祉計画を作成するという事で、その中に余暇活動に関する質問がある。8月頃に集計が終わるので、次回の部会の時には結果が報告出来る。
- 新型コロナが流行する前と今回では、回答結果が変わると思う。我々も、三密に行かないように伝えている。気を付けてくださいと言っている。
- 御紹介したケースの方は地域の学校に通われ、中には大人になってから障害認定を受けている方もある。今まで学校で教育されてきたことが、きちんと理解できず、社会に出て問題になっているということなのだと理解している。このことについて今日で終わりにするのではなく、地域でできることを考えて行けないかと思っている。
- 精神障害者の当事者のために勉強会などを行っている。知的障害の事業所の所長さんに、当事者の問題に対してテーマを挙げて年に1回か2回当事者研修会をやるとか、そういった方向性を打ち出すかということか。精神障害の方で恋愛や性の問題は、あまり表面化した話を聞いたことがない。
- 精神障害の方は、基本的には我々と同じだが知的障害の方は理解の問題がある。講師を呼んだとしても、C判定くらいの方は分かるかもしれないが、それ以外の方は、保護者を対象にしないと難しい。
- 保護者だと、例えば家族会の懇談会で、同じようなことで悩みが無かったか、悩んで解決した結果を、若いお母さんに話していくという、ピアな交流会をやると言う話になるかな。
- 元々恋愛や性は、特に障害者の間で中々語れなかったし、今もそうである。昔研究していた時は、アンケートでそんなことを聞くのか、と批判された。今もまだそういうことに関わらせないように、特に親は、偏見もあるので難しいと思うが、障害者の側から言えば、権利だし、支援があれば出来るのだから、していく方向で取り組まないと、いつまでたっても変わらない。
- すすめ方として部会だけで検討するのではなく、事業所の方や相談の方にも参加していただき、できることを話し合っていくことで良いか。
- 現場の人と一緒に話していくのが良い。
- 一番困っているかた、知的障害だと、当事者より家族なら家族会の方とか、関わる人がいれば、自分達はこうしたい、こういう支援があればやれるということが導き出されるかもしれない。関わっていない人にどうしようといっても出ないと思う。
- 関わりのある方に声をかけて、部会の皆様にも可能なら御参加いただいて進めたい。
- アンケートの結果が出てからの方が良いと思う。余暇活動について9月か10月頃には結果が出る。

○学校の先生なども声掛けが必要かもしれない。具体的に集まれる準備ができたならご案内させていただきます。次回の部会になるかその前後になるか、これから調整する。

(2)令和2年度 自立支援協議会研修会、講演会について

○昨年度までの開催実績及び今年度以降の内容に係る意見について説明(事務局)

○講演会は、予算はどれくらいか。

○3万円程度。

○名古屋大学の先生で、昨年刈谷市で精神医療に関することを講演された。精神障害の方が妊娠した場合、薬の加減が難しく多くのかたが専門病院にかかっている。その他、運転免許と精神障害について、てんかんの方の運転について研究している。

○パネル展示で、沖縄の私宅監置、座敷牢というものがある。沖縄家族会が集めたもので、昔沖縄は精神病院がなく統合失調症になると、どこにも行けず座敷牢に押し込めたという歴史がある。精神看護法が明治に出来、戦前まで日本にあった。そうしたパネルが作成され展示をしているという情報。沖縄県連の40枚のパネルだが、2万円くらいで借りられる。NHKで番組もあり本もある。関連して、愛知県立大学の橋本教授は身体拘束の講演などもしている。きつい内容だが座敷牢のパネルは刈谷では好評であった。精神障害の分野ではそういうことがある。講演内容は、後でお渡しする。

○北海道のベテルの家の、小林さんと言う方は知っているが、予算内で来てくれるかどうか分からない。少なくとも旅費はかかる。

○共さ連では、呉秀三の映画が45分くらいの映画で、6万円程。DVDが借りられると思うが、制度がきちんとしていない日本にうまれて2重に不幸だという内容。私宅監置、座敷牢から病院治療にシフトさせた先生で、振りすぎて社会的入院の問題が出てきたが、まさに権利擁護の問題であり、閉鎖病棟から地域移行という流れになってきている。

○今日の会議の前半の流れをくめば、障害者の恋愛と性と言うテーマでも良いかと思う。

○精神障害ではあまり結婚とかはテーマにあがらない。PSW協会が毎年、「明日天気になれ」と言う講演会をしている。今は雨だが明日は天気になると言う希望をもち、語ろう、という講演会であるが、女性は結婚が夢ということがあり、希望を持たせたいが、事例は挙がって来ない。

○今日のご意見を、運営会議でも検討していきたい。

(3)障害者虐待の対応状況について

○令和元年度の対応実績について報告(事務局)

○虐待の通報があるのは、市か社協かどちらか。

○市になる。

○通報の後のすすめ方はどういう仕組みか。

○基幹センターと本人や家族の方に聞き取りを行っている。そこから虐待認定について市

で判断し、その後、関係機関と支援を整えている。

○認定する、認定しないは誰が決めるのか。

○市になる。

○市とは誰か。

○市役所の障害グループ内で協議をし、所属長に確認をして決めている。

○認定すると何かあるか。

○施設虐待は県に報告するが、養護者は特にない。

○子どもの場合は一時保護されるが大人の場合、一時保護所はないのか。

○今回ケースで4の方は、市と協定を結んでいる施設で一時的に預かり、過ごした。緊急短期入所の利用になる。

○子どもは県が予算をくれるが、お金はどうなっているか。

○このケースに関して言うと、協定を結んでいる場合は市が負担する。但し光熱水費や食事代は利用者負担となる。

○虐待に至った原因が書いていないが、要するに精神障害や知的障害の対処が良く分からないとか、家族関係が崩壊しているとか、色々あるのではないかと思う。そういうことを解決しないといけない。障害が理解できなくて親などが間違った方向へ持っていく。ネグレクトとか、家族関係が崩壊して良好な関係が取れないならそこを解決しないといけない。

○そうしたケースワークをする人材が市にいるのか、基幹センターで担う余裕があるのか。

○もともと担当の相談員がいるケースもある。

○余分な仕事になるのに、担えるのかと思う。

○精神障害で特性が分からず、お互い怒っている場合、弱い方がうつになる。そういう場合は、家族会を御紹介いただくと解決できる場合がある。病気の特徴や、社会資源の使い方などについて助言していくことができる。

○高齢者もそうだが児童にくらべると組織的なことや人材もなく、お金も投下されていないので、これだけ問題があるなら、もっと発信しないといけない。何でも市役所にやれと言ってもやれない。児童相談所も疲弊している。障害者虐待防止学会が今年名古屋で開催予定なので、コロナで遅れているが、情報があればまたお知らせする。